

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874100555		
法人名	鋼製特品株式会社		
事業所名	グループホーム「ひまわり」		
所在地	〒300-4542 茨城県筑西市吉田611		
自己評価作成日	2019年4月22日	評価結果市町村受理日	2019年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0874100555-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	2019年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景が広がる静かな住宅地の中に施設があります。系列の事業所も近隣にあり、利用者様の散歩コースにもなっています。ときには、お茶をいただいけることもあります。近隣の方々は、良い関係を築き、認知症の理解を深めていただくよう努めています。米や野菜は同系で栽培されていて、美味しいお米、野菜が提供されるので安心です。筑波山が見える所でずっと暮らしたいと、入所を希望される方もおられ、自然の中で地域に根ざして生活ができるよう心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

東棟

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、介護のプロとして誇りを持って取り組み、明るく開かれた施設を心がけている。日常的に職員と話し合う機会を設け利用者の適切なケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流の場として、バーベキュー大会、ひまわり感謝祭、などを毎年行っているが、常日頃から散歩中には、こちらから挨拶をし、利用者と地域の方々との接点を作るよう心がけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場などで、普段の生活を報告し理解をしていただくようにしている。又、地域の高校生に体験学習の場を設け、認知症理解を深めていただくように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、行事や利用者様の状況、又空き状況を報告している。施設に寄せられた苦情、出席者からの情報は報告していただき、意見交換を行いサービス向上に繋げている。開催の連絡はご家族にもお知らせしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターからの研修の依頼には、必ず出席し協力関係を築くようしている。社会福祉課の担当者とは、利用者の相談、報告などで常に連携をとっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会を設け、職員2名が委員を努め内部研修を行っている。拘束しないケアの実践は、職員全員が理解し取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け内部研修を行っている。職員同士も注意し合える環境をつくりだしている。入浴時はアザや傷などがないか確認、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内研修に於いて学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を利用されてる利用者様は1名います。後見人とは連絡を密にとっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に説明をした上で、納得していただき、契約の締結を行っている。不安や疑問にはいつでも相談に応じている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や要望は、日々の会話等から聞き取るようにし、申し送り時に話し合いを設けている。ご家族にはアンケートを実施、棟会議や運営推進会議の場で発表し、改善に努めている。結果はご家族に報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善会議を通し、意見交換できるようにしている。定期的に個人面談するなどして、できること、できない理由を説明している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や個人の面談を通して、勤務状況や職場環境についての情報を収集、向上心を持って働けるような環境と、やりがいのある職場作りに努めている。勤務年数に応じて、新年会の場で表彰がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の向上心や力量を把握し、研修の機会を作ったり、所内の勉強会などで個人のケアの質を上げるよう努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型事業所の会議や研修に進んで参加し、自施設でも進んで発表させてもらうなど、お互いにサービスの質の向上を目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するまでは、ご本人の不安や疑問を聞き、何度も面談の機会を設け、安心できるまで説明している。希望や要望を尊重できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と対話しながら、困っていることや不安なことを納得していただいてから、サービスを開始している。居室の見学をしていただき、入居している方の様子なども見ていただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の出来ること、できないことを把握し、今一番必要なことは何かを見極め、他サービスを含めた利用も考え、ご本人とご家族に一番よいサービスを提案するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員一人ひとり、共に生活している関係であることを認識している。思いを共有することで、互いに心が通じ合い、支え合う関係作りができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ともお互いに信頼できる関係を築くように心がけている。ご本人とご家族との絆が途切れないように、面会時は静かな時間が持てるように居室でお話される。又、職員は普段の生活の様子を報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力してもらいながら、馴染みの知人、友人との関係が継続できるよう、連絡の援助をしている。来所されたときは、居室で気兼ねなくお話ができるように配慮している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやリハビリの時間、散歩等のときに、他棟の利用者様とも交流を図っている。他棟の方に会いに行きたいと、希望があれば職員付き添いで行っていただくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族、ケースワーカーなどを通じてご本人の状況確認している。ご家族から連絡してくださることもある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報や日々の会話や観察からご本人の希望を把握し、出来ることは叶えるようにしている。難しい場合は、職員間で話し合い、利用者の立場で考え検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や、ご本人の話から生活歴の把握に努めている。又、ご家族のいない方は、雑談の中から今までの暮らしの把握に努め、職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、お茶の時間以外は、それぞれに自由に過ごしている。部屋で休んだり、運動をしたりその日の体調で行っている。人のお世話が好きな方には、洗濯物をたたんだり、おぼんを拭いたり、お手伝いをさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の時には、モニタリングを行い再アセスメントをし、サービス担当者会議を開いている。本人、ご家族、職員の意見を反映、本人が目標達成できるような介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化など、気付いた点は記録する。ケアプラン、医療に関することは、それぞれ色別に記入し、わかりやすくしている。朝夕の申し送りは口頭で報告、連絡ノートも活用し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望により、美容院や自宅に行くなどの外出支援、彼岸やお盆の墓参りなど、ご家族にかわり支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防機関に協力を得て避難訓練を受けたり、交番にも施設の現状など報告している民生委員、区長、市職員の助言なども受けながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望でそれぞれにかかりつけ医を決めている。往診を希望された方は往診で対応している。、受診が必要となった場合は職員が付き添い通院している。又、緊急時は24時間体制で指示を仰ぐことができるようになっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、少しの変化でもあれば施設内の看護師に相談、助言をうけ適切な受診が受けられるようになっている。受診した場合は、通院記録に記入している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診している際も主治医、病院関係者との関係を良好に保つよう心がけている。入院した際には頻回に面会に出向き、ご本人にも安心していただくよう努めている。また早期に退院できるよう主治医、病院関係者と話す機会を多くもつようしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から重度化に対する説明をご本人、ご家族に行い書面に残している。入院中であってもその後の方針について、ご家族、病院関係者と協議を重ね決定している。終末期のケアもご家族の希望を受け入れ、医師、看護師と連携しながら行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を受け、急変時や事故発生時の対応を学んでいる。又、インシデント、アクシデントレポートの記入から対応策を話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災通報装置の設置があり、消防署にも連絡定期的に避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを全職員が熟知できるようにしている地域の消防団、近隣住民の方々にも災害時の援助をお願いしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握、プライドを大切にしよう心がけている。トイレは各居室に設置してあるが、排泄介助の際は、さりげなく誘導するなど配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の何気ない会話の中から、ご本人の希望など話されるので、できるかぎり話しやすい環境を作っている。あまり要望をされない方には表情等から思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、強制ではなく思いのままに過ごしていただくようにしている。買い物や外食の希望も個々に対応、好きなテレビは居室でみている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは好みに合わせて購入、美容室には職員と行き、好みにカットしてもらっている毎日をきちんとした支度で過ごせるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は栄養課から提供されるが、蕎麦やお寿司など楽しみにしているメニューもある。お膳をだしたり、食器を拭いたりなど、できる利用者にはお手伝いして貰っている。たこ焼きやホットケーキを職員と一緒に作ることもある		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、疾病による制限など一人ひとりの状態に応じ、職員全員が把握している。食事、水分量は記録し、排泄の量にも注意している個人的に食べられないものは、別メニューにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、見守りで、介助が必要な方には、職員が口腔ケアをしている。夕食後は、義歯を預かり洗浄している。毎月、歯科医から口腔機能維持管理の勉強会で指導を受けている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自居室にトイレが設置してあるので、一人ひとりに合わせた排泄を行っている。習慣やパターンを把握し、事前誘導することで失敗を防ぎ、トイレでの排泄の感覚を忘れないようにしたい。オムツも減らす努力をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、運動、食事を含め原因、改善策を繰り返し話し合っている。慢性的な便秘の方は、主治医と相談し指示により対処している。栄養課から牛乳は週5回提供されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則、午前中を入浴時間としている。週2回ですがその日の体調や気分で、柔軟に対応している。入浴剤を使用し、利用者に喜ばれている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に就寝、起床時間も違い、居室に戻って休んだりする時間も違う。一人ひとりに合った時間の過ごし方をしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診の際処方された薬は、契約してある薬局から届けられる。職員は各利用者の薬の用法や用量は理解して支援している。又、薬係を設け事故防止に努めている。病状の変化がある場合、主治医に情報提供している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり歩んできた人生の経験をいかし、洗濯物をたたんだり、おぼんや食器を拭いたりお手伝いをしていただいている。気分転換に個別に買い物支援をしている。下に置いてあるマッサージ機の使用も自由になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひな祭り見学、お花見など、季節の行事に合わせて、外出支援している。外出するには車いす対応の方が多いため、何回かに分かれて出かけている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は難しい方が多いので、買い物の際は、職員が預かり、支払いをするときに本人に渡して見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは自由、電話のとりつきも行っている。希望があれば電話をかける援助はいつでも可能である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は、清潔、足元に危険はないか、明るさ、温度、湿度は適切かを基本に、心地よい空間を作りだすように心がけている。季節の花や外出時の写真、利用者や職員の作品なども飾り工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室とくつろぎスペースが続きになっているため、ひとりになりたい時は、自由に居室に戻ったりしている。気の合った利用者同士でお喋りしたり、テレビを見たりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品を持ち込んでもらっている。家具は本人の希望で配置、お孫さんの写真や、好みのぬいぐるみなども飾り、落ち着いて安らげる場所となるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階の居住スペースには、手すりが設置されていて、歩行訓練ができるようになっている。車いすも自乗できる幅を確保している。各居室は自分の部屋だとわかるように目印をつけ工夫している。階段を使える利用者様は職員と一緒に上がり下りする		